

適度な滝が連なる沢

## 越後 三国川黒又沢五竜沢

矢野

【日時】 2006年10月14日(土)～15日(日)

【メンバー】 L田邊、小暮、笹川、矢野

10月14日(土)

テントの外から聞こえる賑やかな声で目が覚めた。シュラフから出るのも躊躇う秋の朝。冷え冷えとした外に顔を出すと、縦走するのであろう数名の登山者が準備を終えつつあった。一部半袖……。負けてはいられないと勢いよくシュラフを片付け、外に出、一息に準備を済ませる。ややゆっつりの7:30十字峽出発。明瞭な道を黒又沢沿いに進むと、堰堤を越えて穏やかな溪流に降り立つ。水は冷たい。当たり前だといわんばかりに日向沢出合の所に雪がある。少し行くと下降予定の御神楽沢が臨めるが、随分とでかい滝が目に入る。簡単に紹介されているが下降は少々時間かかりそうである。更に行くと沢上に鉄橋、その横、左岸から滝が豪快に噴出しておりとても見応えがある。早々に濡れるのは少々身にこたえるものの如何ともし難い。

右に本流を分け、五竜沢に入ると早々に滝。最初の巻きは直瀑7mとCS状滝を左から。その先6m、トイ状ゴルジュ入口の6mも右から登り、トイ状ゴルジュ終了点へトラバース気味に降りる(最後短い懸垂)。両門を右に入り、少々の巻きや懸垂を交えながらも快適に登る。左にぐっと曲がる点に雪渓があり、急ぎ下を駆け抜けるとその先は沢が小振りになった印象を受けた。地形図最後の滝マークは、右から小暮さん得意の草付きリード。早々に落口近くに到着し、ザイルを固定するや否や快眠!?

登り終えて少し上に進むと右から小沢が流入する地点があり、その対岸は小さいながらもツェルト張って4人が快適に眠るスペースが確保できた。



10月15日(日)

朝から天気は良いものの、思ったより冷え込みは弱い。いつも通り火を起こして朝を済ませ、7:30に出発。5~8m程度の滝が続くが、それぞれ快適に登れるものから少々バランスを意識しないと落ちてしまいそうなものまで色々ある。1050~1100m付近には沢幅いっぱい（20m程度か）に雪渓が残っており、その真中の部分の厚みは薄く、光が透けていたため上を通過する。二股手前で雪渓は切れるが、その雪渓上からの下降は泥、石ぐずぐずで人はずるずると滑り落ちる形になった。二股を右に入ってもいくつか滝はあるが、特に気を使うところもない。水の勢いが弱まる頃、これから突き上げていく前方の五竜岳や稜線には紅葉が広がり、絵になっている。今シーズンは（自分自身のことであるが）各地で紅葉に恵まれていたようだ。その後は、基本的に登りやすい沢形を選びつつ登るとあっという間に五竜岳、阿寺山間の五竜岳直下の稜線に出ることができる。沢形が消えてもなにやら踏まれたような跡があることが随分と助けになった。稜線に出て一休みしてから五竜岳頂上に登る。五竜岳、中之岳間の稜線、阿寺山方面の稜線にも登山者がおり、それぞれが秋山を堪能している様子である。



阿寺山方面へ向かい、阿寺山直下の小鞍部から御神楽沢に下降を開始する。池から沢へ水が流れ出るのであろうか、稜線からとても解りやすく沢に入ることができる。沢の上部はガレており、難しくはないものの落石がいやらしい。水も1100m付近からようやく現れる程度で、遡行した場合は詰めが辛そうである。水が現れてからは滝が続き、懸垂の連続（6回）となる。昨日黒又沢本流から臨めた大滝（2段）は50mザイルを二本つないでやっと下に降り立てる。懸垂が続いたこともあり、下降を正午頃に始めたにも関わらず本流に着いたのは16:00を過ぎており、十字峡に着く頃には随分と日が傾いていた。

【行程】 10/14 十字峡P（7:30）～五竜沢出合（9:30）～890m付近BP（14:50）

10/15BP（7:30）～稜線（10:40）～五竜岳（11:00）～御神楽沢下降点（12:00）～黒又沢出合（16:10）～十字峡P（16:50）

【地図】 兎岳、八海山